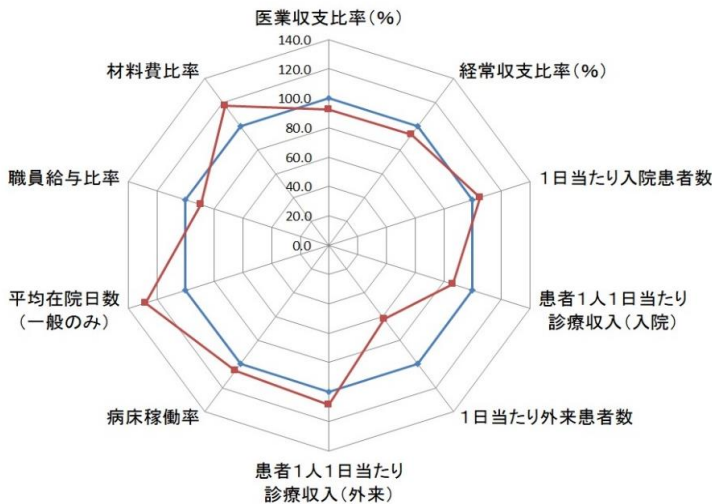




2) 平成30年度 経営分析



左の表は、平成29年度の総務省実施の決算統計において、自治体病院777病院中の医業利益がある37病院平均を100とした場合を青の点線で示しており、平成30年度の当院がどの位置にあるかを示している。

10項目中5項目は平均を上回っており、医業収支比率、経常収支比率共に平均を下回っているものの100%を超えることができたが、昨年と比較すると給与費及び新病院建設に係る委託費の増加等の影響により比率が少し減少している。

今後は、患者1人1日当たり診療収入(入院)、1日当たり外来患者数、給与費を注視しながらさらに健全な病院経営の実践を行っていきます。

区分		H29		H30
		当院実績	黒字病院	当院実績
1	医業収支比率 (%)	102.5	109.0	100.8
	医業費用に対する医業収益の比率を示す指標で、営業活動に対する収益と費用との関連を表します。数値が100%を超えて高いほど経営がいいといえます。			
2	経常収支比率 (%)	104.6	109.8	102.4
	特別損益を除いた経常費用に対する経常収益の比率を示す指標で、経常的な収益と費用との関連を表します。数値が100%を超えて高いほど経営がいいといえます。			
3	1日当たり入院患者数(274床換算)	229.4	219.5	230.6
	年間延べ入院患者数を入院営業日数で除した人数で、入院患者数を分析する上で最も基本的な指標です。			
4	患者1人1日当たり診療収入(入院)	47,383	55,684	48,142
	入院収益を年延べ患者数で除して算出した金額で、入院収入を分析する上で最も基本的な指標です。			
5	1日当たり外来患者数(274床換算)	355.6	563.3	348.6
	年間延べ外来患者数を外来営業日数で除した人数で、外来患者数を分析する上で最も基本的な指標です。			
6	患者1人1日当たり診療収入(外来)	17,721	16,575	18,049
	外来収益を年延べ患者数で除して算出した金額で、外来収入を分析する上で最も基本的な指標です。			
7	病床稼働率	83.7	79.7	84.2
	病床274床に対する入院患者数の比率を示す指標で、病床が有効に利用されているかを判断します。			
8	平均在院日数(一般のみ)	16.0	19.7	15.4
	一般病床(回復期除く)に対する入院患者の在院日数の平均を示す日数で、病床が有効に利用されているかを判断します。			
9	職員給与比率	52.7	47.1	52.7
	病院の職員数が適正かを判断する指標で、この指標が低いほどいいといえます。 *注意点として、短時間勤務者や派遣職員の給与費は含まれていない。			全職員：60.3
10	材料費比率	21.3	25.4	21.7
	病院の材料費(薬品費、診療材料費、医療消耗備品費、給食材料費)が適正かを判断する指標で、この指標が低いほどいいといえます。			

*黒字病院とは：総務省実施の決算統計において、自治体病院のうち医業利益がある病院(777病院中41病院)